

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
372	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Associations of cigarette smoking and alcohol consumption with advanced or multiple colorectal adenoma risks: a colonoscopy-based case-control study in Korea. 結腸直腸アデノーマの進行・複合化リスクに対する喫煙・飲酒との関係性：韓国における結腸内視術に基づくケースコントロール研究	
執筆者	
Shin A, Hong CW, Sohn DK, Chang Kim B, Han KS, Chang HJ, Kim J, Oh JH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2011 Sep 1;174(5):552-62.	
キーワード	
アデノーマ、飲酒、結腸直腸新生物、リスク因子、喫煙	
要 旨	
目的： 結腸内視術に基づいた研究において、喫煙・飲酒習慣と結腸直腸アデノーマ・ポリープとの関係性を確認する。	
方法： 2007年4月から2009年4月までの間に韓国国立がんセンターを訪問し、がんのスクリーニングを行った人を対象に参加者を募って研究を実施した。	
結果： 1,242名の新たに診断した結腸直腸アデノーマ患者と3,019名のポリープのない患者(対照群)、過去に喫煙歴のある者(オッズ比(OR) = 1.31, 95%信頼区間(CI): 1.04, 1.65)、現在も喫煙している者(OR = 1.70, 95% CI: 1.37, 2.11)において、非喫煙者と比較してアデノーマのリスクが増大した。喫煙はローリスクのアデノーマもしくは単体アデノーマと比較して、進行したアデノーマと3つ以上のアデノーマに対してより高いリスクを示した。用量作用関係は毎日の喫煙本数、喫煙期間、積算喫煙年とアデノーマのリスクにおいて観察された。長期間の飲酒は進行したアデノーマ(28年以上の飲酒歴: オッズ比 OR = 2.0, 95% 信頼区間 CI: 1.10, 3.64)と3つ以上のアデノーマ(オッズ比 OR = 2.19, 95%信頼区間 CI: 1.27, 3.76)に対してより高いリスクを示した。	
結論： 喫煙歴と飲酒歴は結腸直腸における発癌と関係があり、その関係性はアデノーマの臨床的形態により異なる。	